

【相川地区】令和7年度あつぎタウンミーティング実施結果

日 時: 令和7年8月21日(木) 午後6時50分～午後8時5分
会 場: 相川公民館 1階集会室
参加者: 地区の自治会長(15名)、公民館地区館長
市長、副市長、教育長、企画部長、企画部次長、総合計画担当課長、公民館・地区市民センター長

自治会長からの意見	市長等からの回答
意見1 相川地区の魅力創出について	
<p>【下津古久自治会】</p> <p>■「魅力」の意味を、辞書で調べてみると「人の心を惹きつける力」とあります。また、現在、厚木市では、「魅力あふれるあつぎの創造」として、「誰もが住んでよかった、住み続けたいと思う、誇りを持てるまちづくり」に取り組まれています。</p> <p>相川地区の南西部において、インフラが整備されつつありますが、市街化調整区域が多く、土地はあるのに住むことができず、人の流れがなく、年々少子高齢化が進み、自治会会員や子どもの数が減少している現状にあります。</p> <p>このような状況において、魅力あるまちづくりに向けて、次の内容が有効だと考えます。提案の実現のため、市、国、県、関連企業や団体の協力が必要なので、市を中心に検討をお願いします。</p> <p>①「人が住める・人の流れがある」の実現に向けて</p> <ul style="list-style-type: none">・市街化調整区域の解除・神奈中バス又は、コミュニティバスの運行 <p>②生活に必要なインフラの整備</p> <ul style="list-style-type: none">・新設道路である県道63号線から県道22号線までの区間の早期完成・開通・桜公園等の遊具・トイレ・駐車場の設置と常に安心安全と思える見通しの良い剪定、清掃・新東名高速道路高架下を有効活用し、公園・全天候型スポーツ広場の設置と市内への拡大・公民館拡張によるスポーツジム設備 <p>③楽しく・自慢できるイベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none">・公民館、JA支所、高架下等を利用した朝市やキッチンカーデーの開催・いちご狩り等への助成金交付・シャインマスカットの育成支援等 <p>・「戸田の渡し」の再現、屋形船の運行、様々な農業体験教室の開催)</p> <p>「魅力ある」とは誰をターゲットにしているのでしょうか。 辞書が示す「魅力」の意味「人の心を惹きつける力」を体現する地区になれることを望み、提案します。</p>	<p>■提案は相川愛を感じさせられるものであり、市としても、その思いを受け止めさせてもらいます。いただいた提案については、できることはスピード感を持って取り組み時間が掛かるものや難しいものもありますが、全力で対応していきます。</p> <p>魅力の対象は、厚木市に関わる全ての人です。まず、地域の皆様に地域の魅力を感じてもらい、地域に誇りを持ってもらうことが市全体の魅力になり、移住者の増加や企業の進出につながります。</p> <p>相川地区は、道路網が発展し、企業にとって魅力的であり、新たな企業に進出してもらうことで地区の魅力の創出につながると考えます。より一層、地区の魅力を高めながら、新たな時代に合わせた取組をしていきます。</p> <p>市街化調整区域については、都市計画マスターplanでは人口減少が見込まれていることから、新たに市街化区域に編入する土地は、住宅系の用途ではなく、工業系の土地利用に限られていることから、住宅系の市街化区域への編入は、現状、難しいですが、企業が進出する際に、そこに働く労働者が周辺の地区に住んでもらえるよう取組を進めていきます。</p> <p>また、コミュニティ交通については、市街化調整区域内の地域コミュニティの維持や地域活力の向上のため、市民の生活の足として重要であると認識しています。</p> <p>今後、酒井の工業地帯に企業が進出することで、交通需要は変化していくと想定されますので、市の施策にも反映していきます。コミュニティ交通は、森の里地区や鳶尾地区等で、地域の自主運営という形態で実施されており、市としてはその事業に補助する支援をしています。ほかにも市では、タクシー助成も行っており、拡充しながら、タクシー利用も促進していきます。</p> <p>今後についても、皆様の意見を聴きながら、相川地区に合ったコミュニティ交通を考えていきます。</p> <p>新設道路の県道63号線から県道22号線までの区間の早期完成・開通について、都市計画道路酒井長谷線は、令和7年7月に供用を開始し、東西軸の整備が完了しました。都市計画道路本厚木下津古久線については、県道63号相模原大磯から県道22号横浜伊勢原までの区間を事業区間とし、現在、先行区間として市道酒井上落合線の相川分署交差点より北側区間の整備を進めています。この区間については、交通管理者である警察との交通規制や供用区間にに関する協議を重ねるとともに、関係地権者や地域住民の皆様に理解があつてのことなので、都市計画道路酒井長谷線から南側、相川分署交差点までの区間においては、年内の供用開始を目指しているところです。</p> <p>今後についても、県道22号横浜伊勢原線までの整備を円滑に進めるべく、地域の皆様との合意形成を図りながら関係機関との連携し、早期完成と開通を目指して取り組んでいきます。</p>
<p>(担当課: 都市計画課、交通混雑対策課)</p>	
意見2 高規格幹線道路を抱えている現状について	
<p>【中戸田自治会】</p> <p>■まちの誇りとして、高規格幹線道路を抱えている現状についてを話します。まちの誇りは、昔あった「戸田・岡田の渡し」、「大山街道」、「神社」、「仏閣」等を連想しがちですが、相川地区には、1968年4月に東名高速道路、東京ICと厚木IC間が開通し、小田原厚木道路、国道129号線、相模縦貫道、国道246号線等も走っています。一地区において、これだけの道路ネットワークを有している地区は全国的に珍しく、他地区に誇れる環境にあります。新東名高速道路厚木南ICの南側には、129号線沿いに広大な田園地帯を抱えています。</p> <p>この地区の誇りを次世代につなぐ可能性のある例を説明します。自動運転や電動化、FCV車両(燃料電池自動車)等の技術開発は、実証実験を行えるレベルまで開発が進んでいますが、駅の整備等のインフラは、具体的に進んでいません。厚木南ICの立地条件を最大限に生かし、全国に誇れる物流拠点となれば、後世に誇れるまちづくりになると考えています。</p> <p>住民や地権者が、行政やコンサル等の支援を受けながら、機会を逃さず活動していくことが重要だと考えます。相川地区が誇れる地区になるよう、今後においても市からの助言や支援をお願いするとともに、地区だけでなく、厚木市や県の誇りとなるよう、様々な施策に取り組んでほしいです。</p>	<p>■相川地区を厚木だけでなく、県や日本の誇りとなる地域とする想いは、市も同じです。様々な案件や規制がある中、皆様の意に沿うよう取り組んでいきます。</p> <p>都市計画マスターplanにおいて、相川地区の厚木インターチェンジ周辺から厚木南インターチェンジ周辺の市街化調整区域は、南部産業拠点として産業系の土地利用の誘導を図るとともに、産業用地などの都市的な土地利用への転換だけでなく、自然環境との調和・連携を図り、農地を含む自然的な土地利用の活用等、地域特性に応じた土地利用の検討を進めています。</p> <p>今後においても、地域の皆様の話を聞きながら、適切な土地利用の検討を進めるとともに、様々な助言の方法があると認識していますので、職員が都市計画法等の内容について説明するといった技術的援助を行っていきます。</p>
<p>(担当課: 都市計画課)</p>	

意見3 自治会活動を通じて感じていることについて

【厚木リバーサイド自治会】

■自治会長を引き受けて最初に感じたことは、自治会長交代の手続きや事務引継ぎ、交付金の手続き、新年度の総会、組長会の資料等、想像していた以上に、やるべきことが多くあるということです。

組長の役割分担や、組織を運営するに当たって、分からぬことも多くありました。自治会長は大変な役割ですが、自治会を組織、運営していく上で、必要不可欠と思っています。

自治会脱退者が増え、会員数も年々減少しています。当団地も高齢化率が50%を超えていたため、高齢者の命と健康を守り、自治会内の防犯、環境の維持等、住民同士が緩やかに繋がり、地域とも交流し支え合う自治会組織が必要だと思います。

現在、自治会会員を増やし、自治会活動を続けていける方法を模索しています。今から、次期会長に引き継ぐ時の為に、組長の役割分担をまとめ、負担にならないように、簡略化することを話し合っていこうと思っています。

今年度から、熱中症対策や役員の負担を軽減のため、暑い夏の行事はやめ、11月に子ども会と共同で、ふれあいまつりを企画しました。初めての試みを自治会内で話し合いながら、地域の交流を広げていこうと思っています。一つ一つの地道な活動が変化に繋がっていくと考え、高齢化のコミュニティを人と人が支え合える、暖かな場所になるよう活動しています。

何でも市に任せのではなく、市民もまちを良くするために、自治会活動は大切だと私は思います。

市への提案が2点あります。

①他の地区の自治会運営や、活動方法等を知るために、各自治会が集まって話し合う交流会の開催。

②自治会加入率の減少対策として、自治会や自治会活動のすばらしさの積極的なPR。

最後に、暮らしやすいコミュニティづくりに向けて、市と自治会が協力しながら、より住みやすい厚木に向けて進めてほしいです。自治会長になってから、改めて自治会の大切さを感じています。自治会は、市の請負と言われることがあります。市民の健康や安全を守るために必要な組織です。

自治会でも模索していきますので、市でも自治会の大切さをアピールしてほしいです。

■熱中症対策として、行事を秋に変更する等の取組をしていくことで、自治会のふれあいやコミュニケーションが円滑となり、参加しやすい状況につながっていくと認識しています。新しいアイデアを取り入れながら、自治会活動の魅力を伝えたいってほしいと考えています。

市として、転入者や自治会未加入者に対して加入の大切さを伝えながら、自治会の加入を推進していきます。その先にはいつ起こるか分からない災害に対する対応があります。自助・共助・公助の中で、共助の1つとして、近助(きんじょ)という役割があります。

多くの方々に住みたい、住み続けたい、住んで良かったと感じてもらえるまちづくりも今後も進めていきます。

各自治会が集い交流する場については、自治会の加入促進に向けた取組として、市内の自治会関係者を対象に、先進事例の紹介や複数自治会による情報共有、意見交換等を行う「自治会活性化講座」を令和6年度に初めて開催しました。他地区の自治会が交流できる取組を厚木市自治会連絡協議会と協力しながら、交流会を進めていきます。

自治会の魅力を伝えるPRについては、令和6年度に市民を対象に、自治会へ求めていることや、未加入である理由等を調査する自治会に関するアンケートを実施しました。アンケートの結果、未加入者の半数が、「そもそも住んでいる地域の自治会を知らない」、3分の1が「自治会が何をしているか分らない」と回答したこともあります。まずは自治会がどんなことをしているのか、またどこの自治会なのかを知ってもらう取組が大切であると認識しています。

令和7年度は、新たに自治会加入促進パンフレットを作成し、市内全戸にポスティングでの配布を予定しており、自治会の魅力や必要性をPRしていきます。市のPRと併せて、自治会の皆様にも是非、協力をお願いします。

(担当課:市民協働推進課)

意見4 厚木の南の玄関口にふさわしい自然と調和した潤いのあるまちづくりについて

【上落合自治会】

■市では、相川地区を厚木の南の玄関口にふさわしい自然と調和した潤いのあるまちづくりを進めていくとしていますが、具体的にはどのようなまちづくりを考えているか教えてください。

■相川地区は、交通の要衝で、東名高速道路、新東名高速道路、圏央道、小田原厚木道路のインターチェンジが多数あります。この魅力ある広域道路ネットワークの活用を進めることで、広域道路ネットワークという魅力が高まり、地区の誇りにつながると認識しています。市街化調整区域の中で、工業系の企業を誘致していきます。

また、相模川や玉川では、市民が親しみ、多様な水生生物等が生息する環境の保全を促進していきます。

(担当課:都市計画課)